

題目「哲学的意味論の観点から、問いと推論の関係を分析する」

授業の目的：言語が意味をもつとはどういうことか？ これについては真理条件意味論、主張可能性意味論、推論主義意味論、意味の使用説、意味のデフレ理論など、様々な立場が提案されている。それらを紹介検討しつつ、問答の観点からの哲学的意味論を展開しつつ、哲学的意味論の基本的な問題について共に考えることを目的とする。

講義内容：問答の観点から言語の意味の説明を試みてきたが、これまで立ち入って論じてこなかった、質問発話ないし問いの意味を明らかにするために、問いと推論の関係を分析する。推論主義意味論、観察言明の意味論、言語行為論、問答論的矛盾、意味の全体論、真理論、などの問題を問答の観点から考察する。

授業計画

- 1、問答の観点からの哲学的意味論のこれまでの成果。
- 2、問答の観点から推論主義意味論を再検討する。
- 3、問いと理論的推論の関係を分析する
- 4、問いと実践的推論の関係を分析する
- 5、問いの意味論
- 6、同一性発話の意味論

教科書：使わない。適宜、授業時にプリントを配付し、HPにupする。

参考文献：授業中に紹介する。

成績：毎回の出席とミニレポート50点、最終レポート50点

オフィスアワー：金曜午後3時～4時

キーワード：推論主義意味論、意味の使用説、言語行為論、

第一回講義 (20141003)

§ 1 導入

前提：「なぜ意味論か？」

答え1：信念や認識は言語によって構成されている。

答え2：事実問題と言語問題を分けられない。

信念の違いなのか、言葉の意味の理解の違いなのか？

認識の違いなのか、言葉の使い方の違いなのか？

「リングはバラ科の高木である」これは語の定義か、対象の定義か？

アプローチの方向：問答の観点からの意味論

- 1 CT「(質問をのぞく) 全ての発話は、問いへの答えとしてのみ意味を持つ」
 - 2 CTからの帰結
- ・(質問を除く) 全ての発話は同一性言明に言い換えられる。

・同一性言明の意味論を与えられれば、意味論としては十分である。

3難問「なぜ主語述語文がよく使われるのか？」

第1章 問答の観点からの言語行為論

参考文献：サール『言語行為』『表現と意味』『志向性』

オースティン『言語と行為』How to do things with words

ライカン『言語哲学 入門から中級まで』勁草書房

野本和幸、山田友幸編著『言語哲学を学ぶ人のために』世界思想社

服部裕幸『言語哲学入門』勁草書房

§ 1 発語内行為の分類

1 『言語行為』における言語行為の分類

サールは『言語行為』(Speech Acts)1969において、次の4つの言語行為を区別する。

- (a) 発話行為(utterance act)=語(形態素、文)を発話すること
「音声行為」「音韻行為」「形態素行為」に細分される
- (b) 命題行為(propositional act)=指示と述定を遂行すること
- (c) 発語内行為(illocutionary act)=陳述、質疑、命令、約束、などを遂行すること
- (d) 発語媒介行為(perlocutionary act)=発語内行為という概念に関係を持つものとして、発語内行為が聞き手の行動、思考、信念などに対して及ぼす帰結(consequence)または結果(effect)という概念が存在する。⁽¹⁾たとえば、
何事かを論ずることによって、何かを説得し、納得させる。
警告を与えることによって、恐がらせたり、警戒心を起こさせる。
依頼を行うことによって、何事かを行わせる。
情報を伝達することによって、納得させ、啓蒙し、教化し、励まし、自覚させる。
- (e) 間接的言語行為(indirect speech act) (『表現と意味』 Expression and Meaning、1779)
「その塩をとれますか?」、I want you to do it'

2 サールによる発語内行為の最初の分類

サールは『言語行為』では分類を行っていないが、論文「発語内行為の分類」(1975)⁽³⁾で発語内行為を五つに分類している。

(1) 断定型(assertives) ⊥↓ B (p)

これは、事実について陳述するものであり、この分類の中で唯一、真偽を言うことのできる発話である。

(2) 行為指示型(directives) !↑ W (H does A)

これは、聞き手にある行為を指示するものである。懇願、依頼、命令、要求、勧誘、許可、助言、など。

(3) 行為拘束型(commisives) $C \uparrow I (S \text{ does } A)$

これは、話し手がある行為を約束するものである。

(4) 表出型(expressives) $E \phi (p) (S/H + \text{property})$

これは、話し手の心理状態を表現するものである。お祝い、陳謝、お悔やみ、嘆き、歓迎、など。

(5) 宣言型(declarations) $D \downarrow \uparrow (p)$

首尾よく遂行されれば、命題内容と現実との一致をもたらすものである。洗礼すること、命名すること、任命すること、判決を下すこと、など。

1番目の記号 (↑、↓、C、E、D) は、発語内行為の種類を表す。**2番目の記号**は、適合の方向(direction of fit)を表す。つまり、言葉を世界に合わせる↓か、世界を言葉に合わせる↑か、の区別である。主張は↓、命令や約束は↑である。宣言の↓↑は両方向、表出型のφは無方向、を表す。**3番目の記号**は、心理状態を表す。Bは信念(belief)、Iは意図(intention)、Wは欲求(want)を表す。Hは聞き手(hearer)、Sは話し手(speaker)を表す。(聞き手というのは、発話の受信者として意図されている人であって、単にその発話を聞いている人のことではない。)